

棹前コンブ漁業について

増殖部 佐々木 茂

一、棹前コンブ漁業とは

釧路以東の太平洋沿岸に生育するナガコンブを対象とした漁業の中に棹前コンブ漁業と呼ばれるものがあります。

なぜ棹前コンブと呼ぶのかという質問をよく受けますが、一般に、ナガコンブはL字型の棹という漁具を使つて、コンブを船べりまですくい揚げ、生長のよいものを選んで採取できるのが特徴の一つかと思ひます。それで七月以降に本格的に棹で採取する「成コンブ漁業」が始まる前に行なわれるので、これを「棹前コンブ漁業」と呼んでいます。

このようにナガコンブを採取する漁業の形態は「棹前コンブ」と「成コンブ」の二つがあります。両漁業とも漁獲対象は二年生コンブで、棹前は豊漁年に限つて密生する二年コンブを間引いて実入りを良くするために行なわれてきました。しかし、ここ数年は必ずしも豊漁年だけでなく、成コンブ漁業と同様にナガコンブ漁業の一つとして考えている組

合が多くなる傾向です。

二、操業する期間

(1) 根室管内

根室市の歯舞漁業協同組合は貝殻島を主に棹前漁業の対象としています。そして地先海面を成コンブ漁業にあてているようです。

根室漁業協同組合と落石漁業協同組合は主に地先海面は成コンブ漁業に、棹前コンブはソビエトの漁業協定が結ばれるまでの実績によつて、歯舞漁協組に参加する形で貝殻島で操業しています。

貝殻島におけるコンブ漁業はソビエトとの民間ベースで行なわれている漁業協定によつて六月一日から九月三十日とされていますが、地先海面で成コンブが解禁となる七月中旬までが棹前コンブの操業期間です。

(2) 釧路管内

浜中、散布、厚岸の各漁業協同組合はナガコンブの豊漁年に限つて操業することが多く

昆布森、釧路東部漁協組は、ここ数年前から流水被害などで大不漁の年以外は操業しており、成コンブと同じレベルで棹前コンブを扱つてきたつもりです。ちなみに釧路東部漁業協同組合の昭和四十年から行なわれた経過はつぎのとおりです。

昭和四十年 五月二十日から六月三十日まで
のうち七日間

昭和四十一年 五月二十日から六月二十日
までのうち十日間

昭和四十二年 五月二十五日から六月二十日
までのうち七日間

昭和四十三年 五月二十日から六月二十日
までのうち六日間

昭和四十六年 五月二十日から六月三十日
までのうち十五日間

三、漁獲したコンブの大きさ

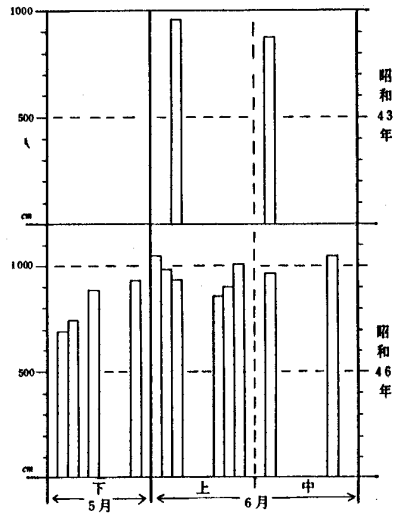
昭和三十六年頃のナガコンブに関する知見は、漁業者、海藻研究者ですら、きわめて低く、例えば昭和三十七年に造成した第二貝殻島の効果を算定した時、ナガコンブは一年生が主体で二年コンブは漁業の対象になつていないと私たちが研究者ですら、考えていました。これはナガコンブの研究がほとんどなされていなかつたためでしょう。

したがって漁業で漁獲したナガコンブの測定などは、まったく行なわれていません。現在でも統計的に扱えるほどの資料はありませんが、まがりなりに昭和四十三年から鉋路と貝殻島で漁獲したものがありますので、つぎに図示してみましよう。1~3図は鉋路産4~6図は貝殻島産の棹前コンブです。横軸は採取した日、縦軸はそれぞれの形質の大きさ、一回の測定数は五十本、柱状グラフの値は五十本の平均値、3と6図は肥大度といつて、コンブの突入り具合を表わす尺度です。肥大度は採取まもない生のコンブの重量を葉の長さに葉巾をかけた葉面積で割り、その値を一、〇〇〇倍したもので表わします。

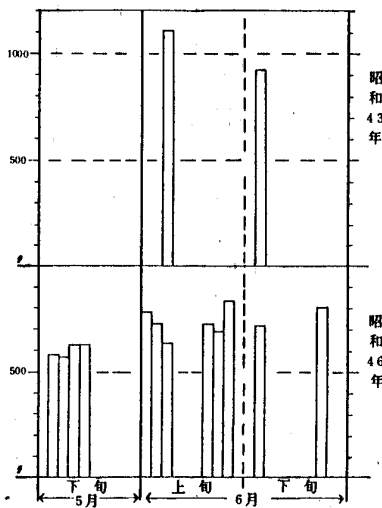
$$\text{肥大度} = \frac{\text{葉長 (cm)} \times \text{葉巾 (cm)}}{\text{重さ (g)}} \times 1,000$$

これで計算した値はコンブ一平方センチメートルの重量で、それをmg(ミリグラム)と読む、一ミリグラムは千分の一グラム)で表わしたものです。

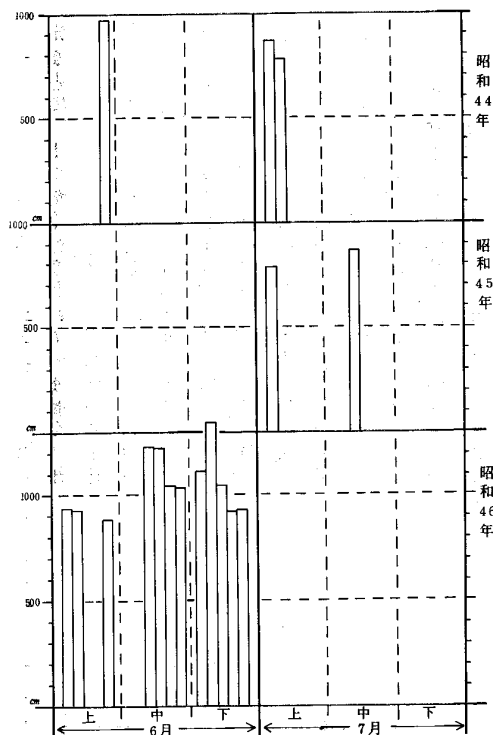
これらの図から一見すると鉋路と貝殻コンブの違いは葉の長さでは余り差はないが、一本あたりの重量を示した2図と5図をみますと、常に貝殻産が三〇〇から五〇〇グラムも大きいようで、その原因は、図示していませんが葉巾が鉋路産で約八~九センチメートル



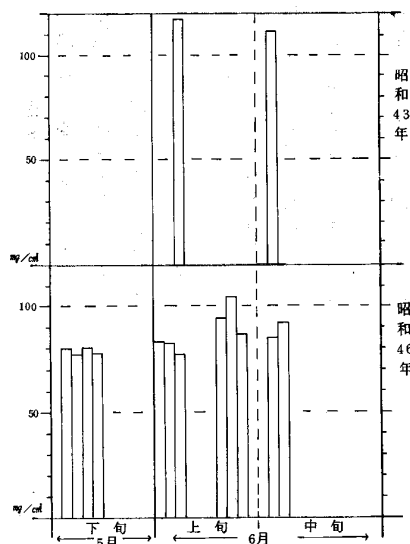
第1図
鉋路
葉長



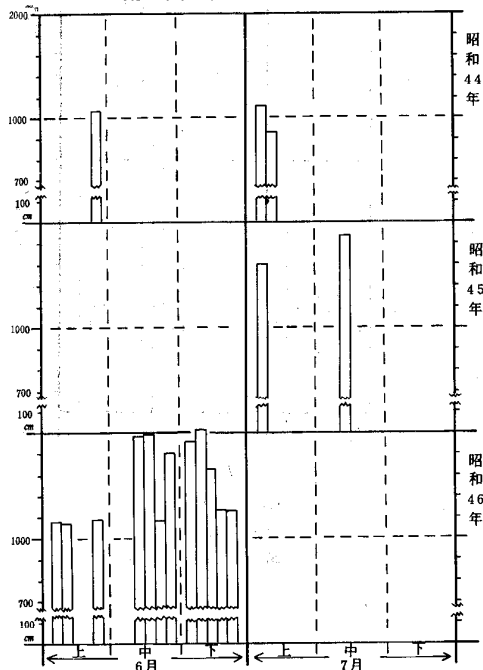
第2図
鉋路
重量



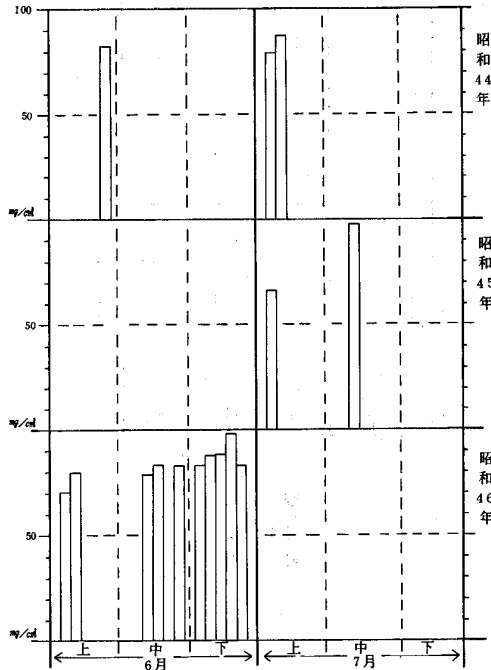
第4図 貝殻島 葉長



第3図 釧路 肥大度(実入り)



第6図 貝殻島 肥大度(実入り)



第5図 貝殻島 葉重量

なのにも貝殻産は十三〜十五センチと広くなつてゐるためです。また3図と6図の肥大度をみると鉋路産が八〇から一一〇ミリグラムに対し、貝殻産は七〇〜九〇ミリグラムで、鉋路産がやや実入りがよくなつてゐます。

このように同じ種類のコンブでも東ほどコンブは大きくなつてゐるようです。

四、資源を左右するものは

ナガコンブの研究は昭和三十六年から鉋路産を対象にはじまり、四十六年に終了する予定で行つてゐます。研究の内容は天然漁場で一人前の二年生コンブになるまでの生活の観察記録です。この研究期間中に史上最大といわれた流水が、昭和三十六年と四十五年の二回コンブ試験地にも接岸したので、流水がコンブにあたえた被害の仕組みや、その翌年にはなぜ大豊漁になるかなどのメカニズムを観察することができました。この研究結果からナガコンブの資源を大きく左右する原因を十分にあげてみましょう。

● 資源を減少させる要因

- ① 一年コンブを九月以降に大量に採取した場合は翌年の資源は減少する。
- ② 流水接岸でコンブがけずりとられた年は資源は減少する。

③ 他海藻によつてコンブの生育帯が占有された年は、その後数年間複元しない。

● 資源が増大する要因

① 流水接岸があつた翌年（ただし連続して接岸する年は除く）

このようにナガコンブは漁業で二年生コンブを取りすぎたために資源が減少すると言ふことはほとんど考えられません。その理由は翌年の採取コンブ（二年生）は、前年の一年生コンブ（水コンブ）を保護することによつて維持させるものであり、また、一年生コンブの発生のもとになる胞子は、ほとんど前年の秋に生育してゐた一年生コンブから出ることが明らかになつたためです。

五、棹前コンブ漁業と成コンブ

漁業の漁獲比

鉋路東部漁業協同組合の場合には下表のとおりです。

| | 棹 前 コ ン ブ | | 成 コ ン ブ | |
|-----|-----------|------|-----------|------|
| | (kg) | (%) | (kg) | (%) |
| 40年 | 204,930 | 15.4 | 1,104,090 | 84.6 |
| 41年 | 372,870 | 28.5 | 935,640 | 71.5 |
| 42年 | 295,050 | 21.2 | 1,099,770 | 78.8 |
| 43年 | 308,250 | 22.5 | 1,062,390 | 77.5 |